

平成27年度事業報告書

I 概況

1. 入館者

平成27年度は入館者数増と認知度を高めるため、様々な展示・イベントを開催いたしました。特に、高校野球100年記念として、当博物館では初めて高校野球をテーマとした特別展「高校野球と野球殿堂」を開催、日本高等学校野球連盟のご協力により都道府県連盟を通じ全ての加盟校、約4,000校に対して当館パンフレットを配布し誘客に努めました。しかしながら、職員2名の退職による戦力減が影響し、毎年年間最多入館者数月の8月が苦戦したことと、東京ドーム受配電盤設備更新工事による15日間(2月29日(月)～3月14日(月))の臨時休館のため、前年比7.8%減の85,306人(前年比△7,266人)となりました。一方、前年度に引き続き研修の一環としてプロ野球新入団選手が約120名、そして新たな試みとして東京六大学野球の新人選手約230名が博物館見学を実施する等、教育施設としての役割が増しております。

平成28年度は、本年3月から当館殿堂ホールに於いて野球殿堂入りの方々を動画・写真等で紹介するスマートフォン向けアプリケーションの新規導入、さらに来年3月開催予定のWBC関連の積極的な展示、そして各種イベント策を講じるとともに、東京ドームシティの営業施設と連携を密にし、入館者増を図ってまいります。

2. 維持会員

維持会員は法人56社(前年比、7社増)、個人会員112人(同、20人増)、ジュニア会員3人(同、1人増)となりました。積極的な加入活動と会員特典の見直しが奏功し、大幅増となりました。今後も、さらに加入活動の促進と会員特典などの見直しを図り、ファン拡大に努めてまいります。

3. 野球殿堂

競技者表彰の古田敦也氏、特別表彰の故・林和男氏の表彰式を、7月17日(金)に東京ドームで開催されたオールスター第1戦の試合開始前に行いました。熊崎理事長から古田氏、林和男氏のご長男清一氏へレリーフのレプリカ贈呈に続き、高津臣吾氏、荒木大輔氏から各々に花束が贈呈されました。

次に、特別表彰の故・村山龍平氏の表彰式を、8月6日(木)に甲子園球場において第97回全国高校野球選手権大会開会式終了後に行いました。当日は、代理として朝日新聞社飯田真也会長にご出席いただきました。熊崎理事長からレリーフのレプリカ贈呈に続き、高野連の奥島会長(当時)から花束を贈呈されました。

平成28年の殿堂入りは、第55回特別表彰委員会から故・松本瀧蔵氏と山中正竹氏、第56回競技者表彰委員会から斎藤雅樹氏、工藤公康氏、故・榎本喜八氏が選出されました。これにより、殿堂入り顕彰者は競技者表彰89名、特別表彰103名、計192名となりました。

4. 普及・広報活動

野球振興につながる事案に積極的に対応し、また当館を紹介する記事、番組の取材や撮影に積極的に協力して広報に努めました。全国野球振興会(プロ野球OBクラブ)主催の全国少年野球教室にも、当館のパンフレットを13,000部提供するなど、開催に協力いたしました。

5. 資料収集

博物館の基礎ともなる展示資料及び図書の収集を積極的に行いました。ご協力いた

だいた皆様には深く感謝いたします。

①収集資料:2,492点(前年3,073点)

②収集図書:1,291冊(前年1,128冊)

尚、資料収集に際し、将来に何を残すかを組織的かつ円滑に行うために、平成26年12月1日に館内に「収集資料検討委員会」を設置し、以降、原則月1回開催しております。

6. 館外活動

野球界、公共団体、類縁機関など主催の展覧会やイベントに際し、資料貸出だけではなく、企画の相談にも対応するなど積極的に協力し、野球振興に努めました。甲子園歴史館、王貞治ベースボールミュージアム、法政大学野球部100周年記念祝賀会、鹿児島県歴史資料センター黎明館、沖縄県平和祈念資料館、茨城県立歴史館等に対し、実物資料、写真や画像データなど、合計15件の貸出を行いました。

7. その他

当館の将来について検討する「野球殿堂博物館検討委員会」についてですが、昨年5月に館内に“内部検討委員会”を設け、準備を進め、本年1月と3月に外部の有識者・関係者による「在り方検討委員会」の会合を開催いたしました。6月の評議員会での報告を目途に提言を纏める予定です。